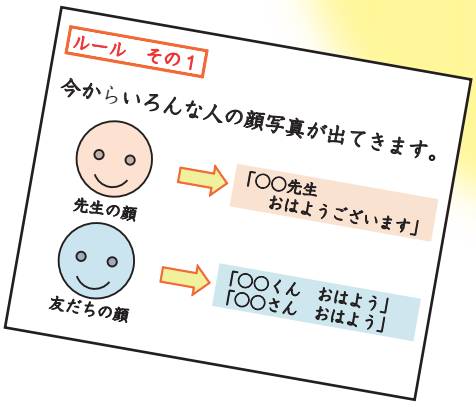
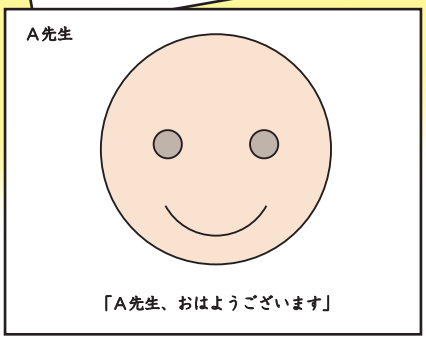
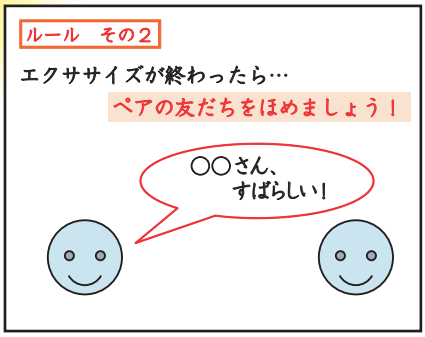
発達障がい教育

まなびのわ

－子どもたちの「できる」を学校全体で支援する－







活用した絵カード教材の一部

平成26年3月
徳島県立総合教育センター

幼稚園での実践研究

指導目標

自分から「おはようございます」と言う

園全体で取り組むポジティブ支援

幼稚園では,「正確性」→「流暢性」→「ピアチュータリング」それぞれの取り組みに,園全体で取り組むポジティブ支援の視点を取り入れました。
教師のかかわり方や環境調整について工夫し,子どもたちから適切な行動を導き,それに対して評価する(ほめる)ことに園全体で取り組みました。

ピアチュータリング(仲間作り)

カード提示を幼児が行うことで,自然に教えあったり,ほめあったりすることを互いに経験しました。

正確性

教師が提示したカードを見て,正確に「おはようございます」と言う練習をしました。

流暢性

正確に言うことに加えて,カード提示に素早く反応する(負担感を感じる幼児が出ない範囲で)ことを練習しました。

Q 園児にどのような変化がありましたか?

A

- 教材を使用して指導する前,教材を使用して指導した後(「正確性」,「流暢性」,「ピアチュータリング」)と継続して記録をとりました。
- その結果,「自分から『おはようございます』と言うことができる」が伸びていることが,数値的に明らかになりました。
- また,ほめられることが増え,行動が積極的になったり,友だちとのかかわりが多くなったりと,園での生活場面において好ましい変化が数多く現れました。

小学校での実践研究

指導目標

良い姿勢で座る

学校全体で取り組むポジティブ支援

全校集会で校長先生が「良い姿勢で座る」2年生の取り組みを紹介。良い姿勢が素早くできたことを全校児童の前でたくさんの教師にほめられて，子どもたちの表情も輝いていました。

ピアチュータリング（仲間作り）

友だちとペアになってカードで練習しました。
お互いに姿勢をチェックすることで，自分では気付いていなかったところに気付くことができました。友だちにハナマルをたくさんつけてもらって，やる気もアップしました。

正確性　良い姿勢ってどんな姿勢？

「あ」足はトントン
「い」いすの前
「う」うしろは背もたれ背中ピタッ
「え」えんぴつおいて手のひらひざに
「お」お顔をあげて前見たら
これでバッチリ聞く姿勢

これをみんなで唱えながら，良い姿勢を意識しました。

良い姿勢の写真を机に貼り，自分の良い姿勢の写真を見ることでモチベーションをアップさせました。

流暢性

『授業中』のカードが出たら「良い姿勢」。
『休み時間』のカードが出たら「リラックス」。
カードを見分けて，素早く良い姿勢になる練習をしました。

Q なぜ『良い姿勢で座る』を指導目標にしたの？

教師の話が聞けなかったり，おしゃべりが止まらなかったりなど，落ち着かない雰囲気がありました。
また，全体への指示が通りにくいときには，繰り返しの指示や個別の指示が増えました。

教師の話が聞けるようになってほしい…。
落ち着いて授業を受けられるようになってほしい…。

指導後

A

- 姿勢への意識が高まると，一度の指示で姿勢を良くして話を聞くことができる場面が増えました。
- 児童同士で注意しあって，姿勢を整えることができるようになりました。
- 良い姿勢ができるようになったことで，ほめられることが増え，自信につながりました。

中学校での実践研究

指導目標

登校時，朝のあいさつをする

学校全体で取り組むポジティブ支援

「あいさつのわ」キャンペーン

1. 意見交換会 (縦割り班)

あいさつをすることが学校や個人として大切であることを提案する。

2. 全体説明会

あいさつのトレーニング(正確性，流暢性)の紹介。生徒会よりあいさつ運動を実施することを提案する。

3. キャンペーンの開始

生徒会メンバーが登校時に，積極的にあいさつをする。

4. 自己チェック

毎朝，あいさつを交わした回数を健康チェックカードに記入し，集計する。

5. 表彰

あいさつが最も多かったクラスを表彰し，トロフィーを授与する。

6. 振り返り

アンケートを活用し，あいさつができていた友だちや，良かったところをクラスで振り返る。

ピアチュータリング (仲間作り)

生徒同士で顔写真カードを提示しあい，その人の名前を言って，朝のあいさつをする練習を行います。
終了後，生徒同士でお互いの良かったところを伝えあいます。

正確性　流暢性

「あいさつをすることの大切さ」の確認をします。

正確性

電子黒板で顔写真をゆっくり提示。教師の顔写真が出た時は「○○先生，おはようございます」，生徒の顔写真が出た時は「○○さん，おはよう」と正確に言えるよう練習をします。

流暢性

電子黒板に生徒及び教師の顔写真を速いスピードで提示し，よりスムーズに言えるように練習をします。

Q ポジティブ支援を実施するときのポイントは？

A

●中学生という発達段階から考えて，教師から提示するのではなく，生徒から発信することが有効と考えられます。そのため，本事例では生徒会が主体となってあいさつ運動ができるように支援を行いました。

Q どのような成果がみられましたか？

A

●4名の教師が毎日5点満点で朝のあいさつを評価した結果，取り組み後に平均点が上がり，客観的に成果がみられました(3.2点→4.0点)。

●また，学習場面でも前向きに取り組める生徒が増えてくる等，他の場面にも良い影響を与えています。

「まなびのわ」に関するQ&A

Q 「正確性」,「流暢性」ってなに？

A

●ソーシャルスキルは，生活の中で使えることが重要です。知識として知っているだけや学習場面のみ使える状況では，ソーシャルスキルは機能しません。「学習したことが実際の生活場面で使えるようになること」が大切と言われるのはそのためです。場に応じて，正しい行動が正確に素早くできることが必要となります。素早くできるようになるためには，練習回数を多くして流暢性を高めることが必要です。

●「まなびのわ」充実事業では，ソーシャルスキルを身に付ける手立てとして「正確性を高める学習」をレベル１，「流暢性を高める学習」をレベル２として位置付けています。
例えば，通常の学級で次のような授業参加スキルを練習します。

- ●良い姿勢で座る
- ●先生が話し出したら，先生を見る
- ●正しいあいさつをする
- ●指名されてから，発言をする　　etc

こうしたスキルを正確に(正確性を高める学習)，早く(流暢性を高める学習)できるようにする指導を行います。「流暢性を高める学習」は「正確性」が高まってから取り組みます。複数のカード教材等を用いることで，正確で流暢な反応を引き出すことができるようになります。

●「まなびのわ」充実事業では「正確性を高める学習」のことを「正確性」，「流暢性を高める学習」のことを「流暢性」と呼んでいます。

Q ピアチュータリングは，なぜ大切なの？

A

●ピアチュータリングは，ピア・サポートとも呼ばれ，通常の学級内での仲間による支援（ペア学習等）のことです。

正確性，流暢性で学んだスキルを友だちと教えあいます。子どもたちは教えられることは多いですが，教える経験は少ないです。
教えあうことは，子どもたちの自尊感情を高めるのに非常に有効です。

Q 学校全体で取り組むポジティブ支援とは？

A

●「正確性」，「流暢性」，「ピアチュータリング」を行い，できるようになったスキルを定着させるために学校全体でほめて支援する取り組みのことです。

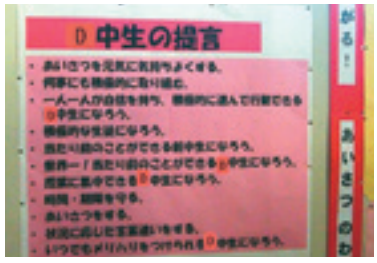
例えば，朝の会，授業，学年集会，学校朝会，家庭へのお便り等を利用して，学級や学校全体，家庭で子どもをほめる機会を計画的に設定します。学校全体でサポートする（学校全体で取り組む支援）体制を整えることで，学習能力や社会性の一層の向上が期待されます。

●発達障がいの可能性のある子どもたちだけでなく，学級全体，学校全体の子どもたちの成長につながる支援です。

●「おはようございます！」 幼稚園

●互いに評価しよう 小学校

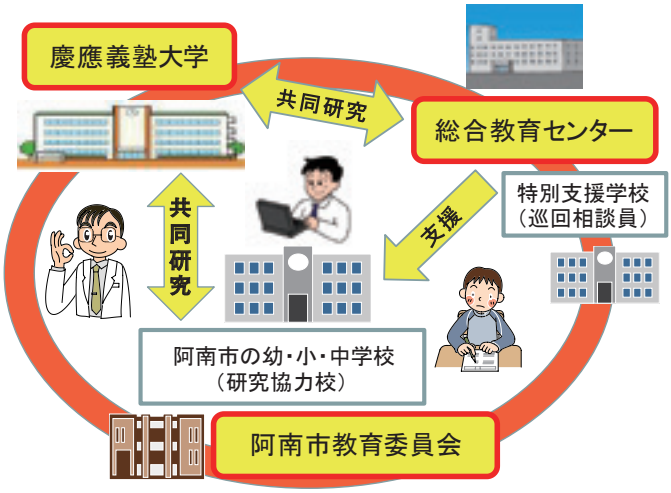
●シールをゲット
小学校



●「あいさつのわ」キャンペーン 中学校

「まなびのわ」充実事業について

●文部科学省から「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（平成24年）」が発表され，小学校及び中学校で学習面や行動面で気になる児童生徒が，6.5%程度在籍しているという結果が公表されました。このような状況の中，徳島県教育委員会では，通常の学級における集団活動において，発達障がいの可能性のある幼児児童生徒一人一人の能力を最大限に引き出す指導内容や，指導方法の充実が重要と考え、「まなびのわ」充実事業に取り組んでいます。



●「まなびのわ」充実事業では，あいさつやコミュニケーションなどのソーシャルスキルを習得するための「正確性」，「流暢性」，「ピアチュータリング」の指導を行い，学校全体で取り組むポジティブ支援について学習教材や，指導方法の開発を行っています。総合教育センターと慶應義塾大学及び阿南市教育委員会（阿南市内の幼稚園・小学校・中学校）で共同研究をしています。

「まなびのわ」充実事業では，「正確性」，「流暢性」，「ピアチュータリング」という方法を通して，幼児児童生徒一人一人の能力を最大限に引き出し，それぞれの学校が目指すポジティブ支援の取り組みを行います。

ポジティブ支援の土台は，幼児児童生徒の適切な行動を，教師がにこやかにたくさん認めてあげることです。それによって一人の幼児児童生徒の笑顔が，クラスの友だちや，学校の友だち，学校全体に広がります。

慶應義塾大学先導研究センター
共同研究員
是村　由佳 氏

この「まなびのわ」充実事業では，発達障がい児の個別指導から学校教育まで幅広く適用できる応用行動分析学を研究する慶應義塾大学の山本淳一研究室が，それぞれの学校の「正確性」，「流暢性」，「ピアチュータリング」の開発協力をしています。

「正確性」，「流暢性」，「ピアチュータリング」は，ソーシャルスキルを習得するためだけでなく，アイディア次第で様々な学習場面で応用できる機能的なツールです。

●このパンフレットについてのお問い合わせ

徳島県立総合教育センター
〒779-0108　徳島県板野郡板野町犬伏字東谷1−7
TEL 088-672-5200
E-mail :tokubetsushien@mt.tokushima-ec.ed.jp